

第3回長井市スマートシティ推進協議会 議事録

開催日時：令和5年9月6日（水） 16時～17時30分

開催場所：長井市役所2階庁議室

出席者：37名（構成員21名、事務局16名）

【次第】

- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 協議
 - (1)スマートシティ長井実現事業の進捗について
 - (2)マイナンバーカードを活用した施策について
 - 4 その他
 - 5 閉会
-

【議事録】

1 開会

2 あいさつ（内谷重治市長）

皆様には、時節柄大変ご多用のところ、第3回の長井市スマートシティ推進協議会にご出席いただき、厚く御礼を申し上げます。

ご案内のとおり、長井市では令和3年度から市民生活のあらゆる分野でデジタル技術を活用し、市民誰もが便利に安心して暮らせる街を目指す、スマートシティ長井実現事業の取組みを、全国に先駆けて進めている。このスマートシティ推進協議会では、皆様から大変貴重なご意見や多大なるご協力をいただいております、重ねて御礼を申し上げます。

スマートシティ事業が本格的に動き始めたのは昨年度からであり、全国の多くの自治体や議会、民間企業、大学、様々な団体から関心を寄せていただき、昨年度までに30を超える団体の視察を受け入れ、今年度も既に約20団体の視察を受け入れている。また、昨年度の協議会の後には、デジタル田園都市国家構想交付金のデジタル実装タイプに申請を行っており、3事業の採択をいただいている。

後ほど詳しくご報告させていただくが、このうち1事業については、マイナンバーカード申請率が高い自治体のみ対象とした横展開事例創出型であり、政府としては様々な障害を乗り越えながら、できるだけ早く国民の皆様がマイナンバーカードを取得いただき、その機能を活かし、これから迎える世界共通のデジタル時代に出遅れることのないようにと考えている。東北78の都市自治体があるが、マイナンバーカード取得率は長井市がトップであり、市民のご協力のおかげで様々な事業に取り組むことができている。事業の詳細については後程詳しく説明するが、こうした取組みを全国に横展開することが非常に重要であり、スマートシティ長井実現事業と同様に地域の課題解決を図るとともに、今後全国的な横展開が目指せるものと認識している。行政あるいは民間で行われた様々なテーマに絞った取組み、AIやICT技術等を駆使した事業の成功例を横展開で、それぞれの地域に合わせた仕組みを模索しながら活かしていくのがデジ田の実装タイプの事業である。本日の会議では、この事業の詳細説明に加え、スマートシティ長井実現事業の進捗についてご報告するとともに、今後のデジタル化について皆様からご意見を頂戴し、さらなるデジタル化の取組みについて一緒に考えていきたい。

なお、長井市では昨年度まで内閣府の事業により、ビジネスチャレンジコンテストを6年ほど続けてきたが、今年からDXコンテスト、徹底したトランスフォーメーションを活かすコンテストに格上げしようということで開催予定となっている。教育委員会と一体となり、各大学等、あるいは本日ご出席の

様々な団体の皆様のアイデア、こういったところをぜひやりたいと思っていたということがあれば、ぜひ DX コンテストにご応募いただければ大変ありがたい。
本日は、皆様から忌憚のないご意見をいただきたく、よろしくお願ひしたい。

3 協 議 [座長＝齋藤環樹副市長]

- (1) スマートシティ長井実現事業の進捗について
- (2) マイナンバーカードを活用した施策について
資料1、資料2に沿って、事務局から説明。

(構成員)

前回の会議では、消防からの視点として、河川水位の監視について意見を出ささせていただき、今回はドローンについて申し上げる。

ドローンは消防の現場でも導入しているところがあり、置賜広域行政事務組合でも、国あるいは自分たちで配備しているようだ。現在、西置賜行政組合では、人員部分について誰が操作するのか、現場で人が割かれることを考慮し、まだ現実的な話に至っていない。

しかしながら、ドローンも災害が起きた場合に有効に活用できるといった話を聞き、消防側での検討とともに、ドローンの普及についても進めていただければ大変ありがたい。

(構成員)

長井市内のスマートストアの運営を担当させていただいているが、我々もスマートストアについては利用率を上げたいと考えている。将来的にも運営が持続できるよう取り組んでいるが、より売上げの上がる商品の陳列や仕組みを考えていかなければならない。

今年度、山形県にスマートストアの課題を提示し、中小企業のパワーアップ補助金事業に手を挙げ、採択いただいた。スマートストアは日常必要なものが置いてある前提として考えているが、地域・個人にとってはそれが必要ではないことや、もっと生鮮食品や野菜が欲しい方がたくさんいることを課題として認識していたことから、誰でもオーダーがスマートフォンからできるようなシステムで、月・水・金にスマートストアの配達をし、なるべく多くの方々に足を運んでいただくというようなモバイルオーダーシステムを準備している。高齢者の使用率も高い LINE システムを利用することで個人情報を取得せずにご利用することが可能であり、11 月末までには完成し、市役所、または伊佐沢のスマートストアで導入していきたいと考えている。

また、説明いただいたスマートロックシステムについては非常に便利なものであると感心した。長井市だけでなくいろいろなところに普及していただければ、市民の方々にとっても利便性の高いシステムになるのではないかと考えられる。

DX コンテストについても、長井市内でスマートシティのたくさんのデータが収集されているので、なるべく多くの方々にデータを提示して情報をいろいろな分野に活かしていただければと思う。

(構成員)

e スポーツイベントについては、老若男女様々な方々に会場に来ていただけるようになり、回を重ねる毎に人数も増えているが、日々の運営についてはまだまだ人数が少ない。いろいろな仕掛けをしながら今日に至っているが、最近では、来ていただくだけでなくこちらから出向いて普及を図る出張型の事業を行っている。サバイバルゲームだけではなく、もっとお年寄りも参加できるような、例えばグランツーリスモや太鼓の達人等、そういったものを持参しながら、改めて e スポーツに対してもっと興味を持っていただくようなことを行っていかなければということで、そちらをスタートしている。

ゲームとスポーツという、この領域がなかなかうまく説明できない部分ではあるが、昨今になってようやく中学校や高校での部活動の利用について、学校側に相談を受けていただけるようになった。従前は残念ながら全く聞いていただけなかったが、徐々に e スポーツに関してご理解いただけるようになったのかなと考えている。

さらに、民間会社の福利厚生の一部として働きかけ、少しずつ利用していただけるよう、今は暗中模索しているところである。現状はそういった状況だが、皆様からご意見・アドバイスがあればぜひ聞かせていただきたい。

(構成員)

当社は長井市と3年前から伴走させていただいているが、だいぶデータが収集できるようになってきている。皆さんのアイデア・ご指導いただきながら進められればと思うのでよろしくお願ひしたい。

先日、くるんとのイベントがあり見に行ったが、大変賑わっていた。スマートシティだけでなく、くるんとの施策等々とも併せてデータを分析し、長井市と一緒に盛り上げていければと思うので、引き続きご指導のほどよろしくお願ひしたい。

(構成員)

マイナンバーカードを図書館カードとして利用するのは大変良いことだと思う。避難所の受付にも使えるということだが、昨年8月の豪雨災害時には市役所職員が受付に苦勞していたようで、それを解消できるということで大変期待している。各公共施設の利用時にも大変便利になると思っている。

一方、病院で実際にマイナンバーカードを使っているが、診察券を出して顔認証しようとするたびに引っかかっていた。その原因はわからないが、結局暗証番号が必要なのか。あるいは写真の撮影時期が古くて認証しないなどの理由があるのかはわからないが、その辺りをもう少し使いやすくしていただければと思っている。

また、ビックデータを反映させて、様々な改善を予定されていることは非常に良いことだと思う。特に当社として関係することとしては、市営バスの利用者の中では今泉駅の利用者が多く、列車からバスに乗り換える方が多いことがわかる。今泉駅前に行くバスの本数はだいぶ限られているため、列車の時間帯とリンクするような他の路線があれば、もう少し今泉駅の方に回るようにしていただくと良いと感じる。

(構成員)

マイナンバーカードを活用した施策を3点ほど説明していただいたが、具体的なスケジュールや場所、どのように進めていくのかという点をお聞きしたい。現在は絵に描いた餅のようなものだが、マイナンバーカードを利用していくために、具体的にいつからどのシステムが使えるか、そういったお話をお聞きしたい。

また、スマートシティに向けた取り組みの中で、ビックデータ化ということではいろいろなデータが蓄積されていると思うが、第三者の人が利用できるようオープン化されるのか。集まったデータを利活用する際、インターネット上でいろいろな人のデータを取り扱うことができるのか等、そういった点についても考え方をお聞きしたい。

(事務局)

マイナンバーカードについて、ポケットサインについてはアプリがリリースされている状況である。そのアプリの中のシステムの作り込みの調整を始めており、年度内中に運用開始予定となっている。

スマートロックについても、施設整備の調査をしているところで、年度末に近い時期に実装予定。

(事務局)

まず、オープン化への考え方はある。その上で、2つの考え方で取り組みを進めさせていただいており、一つは地域の住民の方への注意喚起等。河川の氾濫など、そういった災害対策の度に市が住民の方に開示することが必要だと考えており、適切な開示の仕方を庁内で整理させていただいているところ。

もう一つ、様々な方がデータを分析しながら地域への事業展開等を考えていただくためのオープンデータについて考えている。ただし、扱いとして個人情報等は含むことはできず、特定されてしまうような出し方も難しい。その辺りについてもしっかりと、出すべきデータ、出すことが可能なデータを精査し対応させていただきたいと考えている。

(構成員)

防災の観点から申し上げますと、置賜地区は去年の8月3日に豪雨災害があったが、温暖化などの気象条件の変化によるものか、全国でも、毎年大規模な災害が頻繁に起きている。そのような中で、今回の資料では河川の監視カメラやセンサーの設置について説明があった。これについては大変良いことだと思う。

しかし、去年の8月3日の水害を見ると内水氾濫があり、最上川の樋門を超えたときに内水がどんど

ん上がり、タスの一階部分が水没したということがあった。小河川の水位の観測はもちろん大事だが、最上川の樋門の部分にカメラやセンサーを付けることによって、氾濫の前の予防にも繋がるのではないか。今までの例を見ると、水が上がりました、道路に上がりました、河川が氾濫しました、そこから県や市町村から出動要請が来る事例が多いため、まずは予防すべきであり、氾濫の前に要請がかかるような仕組み作りをぜひ行政と建設業界で行えればと思う。

(構成員)

農家の代表ということで来させていただいた。前はドローンについてお話したが、今日は洪水について申し上げる。

米沢にはライブカメラがあり、川西までケーブルテレビで見ることができ、市内の各交差点等、様々なところを見ることができる。それをリアルタイムで見られるので、状況が把握できる。昨年8月3日に、我が家は床下浸水で避難することになり、妻の実家に行くことになったが、朝起きたら川西の道路が全部冠水したことで帰れなくなり、高畠、南陽から国道を通って帰ってきたという覚えがある。そのことから、周辺状況を把握できるようなシステムを構築していただきたいと思う。

また、ライブカメラや防犯カメラを様々なところに設置していただくと良い。最近、農作物や農機具の盗難がいろいろなところで起きている。川西あたりでは、置いていたはずのトラクターが小屋の中からなくなったということもあり、先日我が家にも、長井警察署から「お宅の自転車が届いています。」ということで連絡があった。いつなくなったのか全く分からないまま、自転車を預かって来ることになったが、そのようなこともあり、ライブカメラなり防犯カメラを設置していただくと、さらに見ることができれば、将来安心して住めるのではないかと感じたため、提案させていただく。

(構成員)

先程の説明でもあったように、7月31日、デントコーン畑でクマが発見できるかドローンを活用して実験を行ったが、その日、偶然にもデントコーン畑にクマがいた。そこでドローンを飛ばしていただき、センサーカメラでクマの居場所も大体分かり、またクマ自身も動いたため、そのクマの上をドローンに飛んでいただき簡単に捕獲することができた。相手はクマという有害鳥獣であり、人間に難なく危害を加えることができるため、緊張感と心の準備が必要となる。今回の実験のようなやり方は、クマがどちらの方向に逃げそうとか、そのようなことが瞬時に判断できる。猟友会においても少しは心にも余裕が持てて駆除活動できたということで、捕獲従事者の安全の面でも非常に有効な手段だと感じた。

また、会員から出た意見として、この先イノシシの駆除もしなければならず、ニホンジカも最近多くなっており、米沢の方では昨年40頭以上のニホンジカが駆除されている。この近辺にもシカが入って来ると、山の杉の木等がほぼ全滅状態になるということで、雨が降った場合にも土砂崩れ等の災害も心配しなければならない。冬期間であればもっと簡単に有害鳥獣、シカ、イノシシが発見できるのではないかという意見も出ており、機会があれば相談の上、そちらもテストしていただきたい。

一方、スマートシティの計画とは相反することだが、こういったことで有害鳥獣対策を実践していると、地域住民の方が「クマを見た。イノシシを見た。だから駆除してくれ。」というような意見が結構あるようだ。その前に自分たちで何ができるのか。例えば、空き家の柿の木を切るとか、環境の整備、緩衝帯の整備等を地域ぐるみでやるとか、そういったことが全くなってしまうことが懸念される。我々猟友会の立場からは、環境整備等もしっかりしていただきたいと考えている。

(構成員)

農業分野の観点からも、今やドローンは各地区で利用されている。水稻防除をドローン散布で行っている状況であり、今年も十数台長井地区に入っている。その中で、ドローンを活用して他に何ができるのかというと、特に災害と水の流れの把握が考えられる。農業には水は不可欠であり、今年の場合は猛暑による水不足で、特に新潟・庄内の辺りは非常に大きい被害を受けている。幸いにも、この長井地区ではダムがあることにより、水不足にならない状況で作付けをすることができた。本当にこの地区はすごいなと思っているところ。

現在、農業分野では土地改良整備事業を、草岡、成田地区約400町歩を目標に行っているが、それにより水の流れが変わってきている。今回、河川20か所の水位監視を行っているということだが、新たに小水路、小排水路等にも水の流れの監視が必要なのではないかと感じている。今のところ大きな被害が出ていないが、この水の流れが的確に判断できればありがたい。特に、各地区にゲート管理者がいるが、大雨降った場合のゲート管理または水がない時のゲート管理について、この管理者にどういった形

で発信ができるのかというところが課題であると考えている。これからの災害が起きないような方向に検討していければいいと思う。

(構成員)

資料2の29ページの、人口と世帯数の見える化、地図へのプロットについて、今までは数字が乱立し、どこに増えたのか減ったのかよくわからない状態であったが、このような地図にするといろいろな経済の側面も見るができる気がして、解析に非常に興味があるところ。当所としては、今年、BUY長井運動ということで、市内の商店街の購買運動に関する取り組みを行った。その結果を手作業で集計して各店の成績が出ているが、初めからながいコインとタグを組ませただければよかったと思っている。第2弾でそういった計画が進んでいるようなので是非お願いしたい。

一方で、DX化により、手作業で集計したような内容がすぐわかってしまい、個店の成績表がすぐ出てしまうというような状況がある。先ほど、公開をどこまでするのがよいかという話が出ていたが、誰でどこまでデータを扱うことができるのかというところが非常に大事なポイントだと感じている。便利さの裏側に、プライバシーというものをどこまで担保するかというところがある。

(構成員)

私はこの春、長井市に異動となり、早速ながいコインをスマホにインストールして使っている。大変便利だと思う反面、私の購買店舗、購買頻度、購買品目、全てデータとして把握され、どこかにまわっているのかなんてことを考えてしまう。現在、様々なところでウイルスの進入により混乱したり情報が抜かれたりということで大騒ぎしていることもあるので、データ管理はしっかりしていただければと思っている。

また、人口の増減マップや、子どもの移動範囲、ナンバーの分析、これらは今すぐ我々も欲しいような情報。事故防止の対策や子どもの見守りの対策に有効に活用するため、私たちでも入手できるよう早急に話を進めていただければ円滑な活動ができると考えている。

それにプラスして、少子高齢化の中で、高齢者の見守りの部分で何か有効な対策はないか。難しいのは独居の老人、一人歩きに不安がある方など、そんな高齢者が安心して暮らせるような見守り対策も考えていただけると警察としては大変助かる。

(構成員)

私の方からは、ながいコインの展開について感想等申し上げさせていただきたい。

プレミアム商品券をデジタル化したものになっているということで、県内他市町村を見ると、まだ紙媒体で取り扱っている市町村も多く、その場合は銀行に紙の商品券の回収や換金化を委託され、手数料を頂戴している。これがスマート決済となりコストもかからなくなれば、非常に有効な取り組みであると考えている。

一方で、加盟店が165店舗ということで、私も利用者として買い物で使えないところがまだまだ多いという感想を持っている。小売店がながいコインの加盟店になったことにより売上増加に繋がっているのかアンケートをとることにより、定点観測を行うのも一つの方法かと考える。そこで、売上増加に繋がっていることがわかれば、さらに加盟店の増加に繋がる。ひいては長井市の小売店の経済効果にどれだけ寄与しているか、最終的に分析できれば面白いという感想を持った。

質問だが、資料8ページでさらなる展開拡大ということで、観光ツアーや宿泊プランへのセットを掲げているが、現段階で何か具体的な構想やスケジュールプラン等があればお教えいただきたい。

(事務局)

8ページのながいコインの展開のところにに関して、観光ツアー宿泊プランのセットについては今時点で明確に何月からという話はない。その一方、実はほぼ同様の地域の視察ツアーについては、アルカディア観光局様にご協力いただき、スマートシティ長井の視察ツアーとして既に有償で販売という形をさせていただいている。先ほど市長からご挨拶のあった視察段階の受け入れの際に、こちらを經由してお申込みいただき、ながいコインをセットで販売する、そして地域に必ずお金を落としてもらおうというような仕組みを運用している。こちらを観光や、タスパークホテル、地域の宿泊業を営まれている方々と連携しながら、広げさせていただきたいというところであり、注意をしながら進めさせていただきたいと思っているところ。

(構成員)

先ほどお話があったBUYながいプロジェクトとのコラボは、私としても非常に大賛成だと思うので是非ご検討いただきたい。

(構成員)

事業が既に1年半経過しており、一度あやめレポで事業概要の部分については市民に周知されたが、今回聞いたマイナンバーカードに関する事等、非常に身近なところでこれから展開されていく部分を含めて、再度あやめレポ等での周知をお願いしたい。

また、高齢者のスマホの促進に関して、連絡にはやはり携帯電話の方が便利なため、私も地区では世帯票の中にできるだけ携帯電話の番号を書いてもらうような形で情報を集め、積み上げを図ろうとしている。ある自治体では高齢者を含めて携帯端末を全員に買い与えるということをしているところもあると聞いている。そういった部分等で、高齢者の利用促進を図るような手立てというものを、私たちが考えていかななくてはと思っている。

(構成員)

今までのスマートシティ事業の成果などを見るとだいぶ良くなってきており、市民にも使ってもらえるところが出てきたという感想を持っている。今回説明があった施設の入退庁管理システムに関しては、私自身は賛成ではあるが、館長会の中では、今までの経過を鑑み、すぐに「はいそうですか」というのは難しいと感じている。ただ、特例等を設けていただければ良いという話も出ており、その場に応じて協議していければと思っている。それにより、管理者の負担も軽減され、使う人も楽になるという観点から非常に良いことだと思うが、そのために逆に受付等が必要になってくるとなると、それが業務時間内ではできないため、どのようにしていくかこれから考慮しなくてはならないのだろうと思っている。くると等の入場についても、猛暑の中30分も待って入らなければならないというようなこともあったので、例えばJRのSuicaなどをタッチして中に入れるような方法が使えれば非常に良いと思う。

また、去年の災害の時期もそうだったが、避難所で受付するのに列が連なっているという話を聞いた。そういうところも迅速にできれば、避難してきた人も非常に良かったということが実感できると思う。

(構成員)

質問だが、長井市のマイナンバーカードの普及率が非常に高く、83%となっているが、残り17%というのはどのような方で、どのように回収していく予定であるかをお聞きしたい。

(事務局)

未申請者には、高齢者である80代以上の方や、未就学者、10代という方が多い。小さいお子さんについては、先月ぐらいから各保育所等に広報して回らせていただき、申請・受付等を行っている。

また、高齢者の方については、報道にもあるように、申請の際の意思確認や暗証番号の設定が難しい方について、国で今後の進め方を検討している。高齢者についても保育所と同じように各施設等を回らせていただいて受付業務をやるかという話もあったが、そういった情報があったため休止しており、秋以降の対応を待っている状況。

(構成員)

現在の取組みよくわかりました。なるべくマイナンバーの交付率を高めて90%になったら、また次の施策を打っていければと思います。

高齢者の救急車を呼んだ際に利用する「命のバトン」があるが、これはマイナンバーカードがあれば済むこと。民生委員の皆さんも、命のバトンの用紙を苦労して配布している状況。市民の安心・安全のためにはマイナンバーカード全員が持っていていただくよう施策を打っていった方がいいと思う。さらに、広域的な話として、長井には救急車が2台あるが、みんな出てしまっており白鷹分署や飯豊分署から応援が来る場合があるが、マイナンバーカードがあれば、どこの分署から来ても同じ情報を救急車は持つことができ、移動中の情報共有等においても、広域的な意味で有用になると思う。

また、当方では、ながいコインに関する業務を行っているが、市民の皆さんのご利用が多く、今回の物価高騰対策についても非常に高い利用率となっている。資料に記載のある利用率としてスマホタイプが40%、カードタイプが60%となっているが、高齢者の皆さんの利用率は実際の店舗だとその半分。

ここをどのように高めていくかが、今後のマイナンバーカードの展開にも重要な部分になるかと思われる。

(構成員)

資料3の7ページ、アプリを利用した入退所管理システムがあるというのを見て、利用料は絡むものの、タスパークホテル2Fのコワーキングスペースのように、利用率が最近高くなったとはいえ人が常駐するには少しもったいないという部分にこれが使えると良いと感じた。

また、近隣の市町の方がフラワー長井線を利用してくるんにと来ることを見越して山形鉄道や長井市と相談し、観光局でピーティックスというアプリにより「一日フリーパス」を購入できる仕組みを作ったら、初日の利用者がTVに映り「フラワー長井線で来ました」とコメントしていただいたのは大変良かったと思っている。フラワー長井線の電子チケットと図書館利用がマイナンバーカードと紐付され、チケットも買えるようになると、一気に通貫で利用しやすくなるんじゃないかと考えられる。

さらに、資料2の8ページの関係人口向け展開について、当局としてはまさにここを狙いたいところで、ぜひ教育事業などの視察ツアーのみならず、一般旅行者が、例えば「ながいコインが簡単に買える、ネットで買える、ホテルが利用できる、ツアーが申し込める」となれば大変充実した仕組みになると考えており、関連の打ち合わせにぜひ参加させていただきたい。

(構成員)

長井市のスマートシティの実現に向けた取組みをいろいろお聞きしているが、科学技術・デジタル技術の進展をどのように地域課題に結び付けていくかという中で、当会としてはやはり人口減少かと。利便性とリスクではリスクの方が心配されるところ。まず今回取り組んでいる「小学生・子ども見守り事業」については非常に良い事業だと思っている。これについて先日協議会内の事務局会で話し合ったことがある。中央児童センターでの放課後 児童預かりをしているが、今年のように猛暑が続き、小学校から中央児童センターにまで来る際に子どもたちがふらふらになり、水筒も学校で既に飲み干しているという状況。小学校と連携したいという話も出たが、学校の先生方も大変な業務を持っており、そこに連携というのは難しいのではないかとということもある。これからの事業の中でそういった保護者と子どもの繋がり以外にも、例えば中央児童センターの職員等、そのような方面への情報提供ができるシステムがあると非常に助かるのではないかと。

また、当会が持っている高齢者の事業については皆さんご存じかと思うが、人手不足が生じている。IT技術を使ったものについては、例えばロボット等のようにいろいろなところで取り組まれているところもあると思うが、今回のように管理系業務のAI導入について取り組まれるということについても、その分野で省力化できる取組みとして非常に良いのではないかと考えている。これからの事業展開に、リスクを考慮しつつ、人に代わるモノという部分で期待したい。

(構成員)

まず1点目として、スマートロックシステムについて対象が9ページに書いてあるが、私自身が自治公民館の館長をしていることもあり、なるべく早いうちにこちらにも導入をご検討いただきたい。

2点目として、老人保健施設リバーヒル長井の前に三合田川という非常に細い河川が流れており、これが去年の8月3日に内水氾濫を起こし水位が堤防を越え、施設が床下浸水となった。そのため、デジタル関連に興味のある職員が、欄干に手作りのカメラを設置した。水位計も手作りしており、堤防を越えそうになったら職員数名のスマホにインストールしているアプリに警告が届くようになっている。その水位計は3,000円くらいで作ってあるとのこと、信頼性自体は不明だが、しばらくはそちらを使っていけると考えている。

3点目だが、ここ1年以内に見たTVの中で、eスポーツと関係するのかわからないが、お子さんの体力や体格から、簡単な運動の情報をAIが分析し、そのお子さんにあったスポーツ競技を教えてくれるというものを取上げていた。教育的にどうなのかわからないが、面白い取組みだと思う。

4点目として、高齢者福祉、介護について、長井市の高齢者数はピークアウトしたが、後期高齢者数は2030年までは伸び続け、そこからピークアウトして2040年の後期高齢者数は3年前とほぼ同じくらいとなる推計がある。後期高齢者の夫婦のみの世帯や単身の世帯はまだ増え続けるということになる。高齢者の生活支援と見守り体制はより充実させる必要があると思っている。行政が関与できる生活支援である買い物支援や見守りは、家庭内での転倒や急病を知るきっかけになるのではないかと。買い物支援については、1か月程前の山形新聞に、伊佐沢のスマートストアとは別であるが、対面販売が高齢者の

社会性の維持と健康のために必要という記事が載っていた。本日の説明でのモバイル購入ということもあるが、担い手をどうするかという問題がありつつも、移動販売についても検討の余地はまだあるのかなど。必要な世帯がどこにあるかというのは、住民基本台帳や地区長が管理する世帯票から明らかになるわけであるから、効率的に移動販売できるルートというのがここから割出せるだろう。これは既に取組まれているものを活用すればできるのではないかと考えている。

また、高齢者世帯の見守りに関して、命のボタンは服薬している薬の情報や緊急連絡先を知らせてくれるわけだが、マイナンバーカードの健康保険証としての活用が進めば、抱えている持病の情報も入手することができると思うので、心不全を起こすリスクや転倒リスクを持つ世帯が事前に把握できるのではないか。これを救急搬送されたことのある疾病データと掛け合わせれば、どれが救急搬送に繋がるリスクが高いのか、それを抱える世帯がどこにあるかというのがわかってくるはず。そのSOSを誰がどういう形で発信するのかということになるが、これはスマホの利用が進んでくればそこから発信すればいい。緊急警報システムを市では進めているが、なかなか導入が進まないという話があったので、もっとそういう面でデジタルを活用できるのではないか。

最後に、認知症の高齢者の徘徊について、県警本部で山形101ネットワークという見守りの通報システムを運営されているが、認知症の高齢者に小型端末を如何に持ってもらうかという事がずっと課題だったが、既に民間企業が認知症の方の薬やアクセサリに隠せる超小型GPSのようなものを開発しており、これらを活用することがどうなのかも検証したうえで、もし有効であれば進めていただければありがたい。

マイナンバーカードが高齢者施設で進まないというのは、先ほど事務局が発言した理由もあるが、我々は緊急事態に備えて入所者の保険証を預かっており、保険証であればまだ抵抗がないが、マイナンバーカードの場合には他のいろいろな個人情報も預かることになり、その暗証番号についてもいざというときに我々が使えない懸念もあり、保険証と同じように使える方法が良いと考えている。反対という意味ではなく推進する立場から、何とかうまく使える方法がないか、国政で検討していただきたいと思っている。

(構成員)

当会では、せせらぎ、すぎな、養護学校、あゆむ等、自分で意思表示ができない人たちのために会議を開催しているわけだが、デジタル化はこういった弱い立場の人にこそ役に立つはずであり、そういった会議の中で伝えるべき重要な内容であると改めて感じている。個人的には、高齢者向けのスマホ教室などがもっとたくさんあれば良い等とも感じているが、やはりその前に会議で集まる方にどんなことに困っているのかということ聞き取りすべきであり、この次にはそのようにしていきたいと感じた。特にマイナンバーカードについて、意思表示ができない子どもたちの実態は未確認ではあったが、やはり、多くのカード類を持つ負担を軽減するためには、マイナンバーカードが様々なところで通用するということもあり、この点についてはとても良いことだと思う。

次に、高齢者の問題についてだが、特にタブレットを使って高齢者が食事を注文する方法は川西町でも行っており、身近なことで一つでも実現できることを早く進めていただきたい。

また、市内の路線バスについても様々なデータが出ており、そのデータを活用してバスが便利になっていくであろうことから、デジタル化が弱い立場の人に役に立つと思うので、皆さんにもこのような情報を伝えながら、事業が加速されるように頑張っていきたいと思う。非常に大事な会議だということ改めて感じた。

(構成員)

市内の子どもたち、小中学校には市から本当に貴重な予算を充てていただいていることをまず感謝申し上げる。このスマートシティ長井実現事業、デジ田の交付金に関しても、教育に支援をいただいていること本当にありがたく思っている。GPS端末については、年度途中から申し込みできないかという保護者からの問合せも各校にいただいております、それを市役所の担当者に伝え対応いただいているところ。

本年度、今までになかったこととして熱中症に関する対応があり、夏休み明けにも関わらず異常に暑く、WBGPの数値をしっかりと計測しなければならぬ状況。現在は、2か所で一日数回、教頭と養護教諭が測ってきて、その数値を昇降口前の掲示板に提示して子どもたちに注意喚起を図ることを行っている。先ほどの発言でもあったように、1、2年生の下校が非常に高温の時なので、そのWBGPをもとに水を飲ませ、学童よりもさらに自宅が遠い子もおりますので、そういう子にも声をかけながら下校させているというような状況。こういったことが今後も続くとなると、来年度は現場に行かなくとも、

手元の端末に数値を飛ばせるようになれば、それだけでも業務が変わってくる。実際に担任からは、「測ってきた数値をタブレットの Teams にあげてもらえないか、そうすれば教室ですぐに子どもたちが換気ができる」という意見もあったが、今はそれが手間であり、玄関前に見に来てほしいと頼んでいる状況。今後、そういったところにデジタル技術を活用した機器がでてくるかと思うので、活用しながら子どもたちを守っていかねばと感じている。

4 その他

特になし。

5 閉会

以上